



芭蕉句選
上

花流言
蛙
初



春の離緒いふはあま
甘き後唐のいふはあま
大和歌のいふはあま
昔はあまのあまの
汗はあまのあまの
何はあまのあまの
能く能く
あまのあまの
あまのあまの

花流言
蛙
初



春は離緒の心はあはれ
 其は唐の心はあはれ
 又和歌の心はあはれ
 其は唐の心はあはれ
 洋區の心はあはれ
 間高上り



自在のくく賤の短才の
曲詩をあらとて是をいへば
思ふふの華の愚あはれ
彼あはれ叫木鳥戯りぬを戯
とる類あはれとて自筆元祿
の頃か俳風たつてふとて又
時ふとて白哉とて森青とて
西上人の鬼とては杜郭師。

揚城さうとて五七五簡言
あはれとてはあはれとて
此更とてはあはれとて風
泊あはれとてはあはれとて
又あはれとてはあはれとて
あはれとてはあはれとて
あはれとてはあはれとて
あはれとてはあはれとて
あはれとてはあはれとて

惟昔えんを成平は〜達生の
 日擲筆菴主人自序



凡例

- 一四季の類々大抵玉海集此等小擬
ひちちちち難を其季の末小裁寸
- 一連歌は初ひさる題ハ愚意よりよむせく
其類の所く小記
- 一月花はむしひさる句をその句意と量
く難れ部小入れ
- 一此集小引の書簡写すれは烏

馬乃誤るゝと云れ

一 集衆人の見小觸く後校合の委
かゝるを以て再校し粗その誤を補
して猶後人之参考に傳

春之部

蓬萊の山と伊勢の山は
幸と猿とせし猿の面
之は田毎の目と云ふれ
誰やうとせしと朝の者
多れ人うとせしと花の者
と云ふ新曲のうた五株

越人髭尾冠より

他合しや新年

よりとてまき

とけしとて考へ

おかしき歌ありまわし
ありて酒無し
置き候へ

細代民部はよとて

梅の采ふ花より木をむきよき
ちんぎのうらむに梅の花
旅のうらむ古のうらむに

禁じぬ事

暖簾の奥より北乃事
人はいふ事のうらむ

るのうらむ事

あるうらむ事の中なる梅の花

防川亭

後のふたはき
あは

香城さくら梅よりあはる水
子さくら梅の花のせし乃集
香ふ白へさるる園に梅の花
何う新八もあはるる一由ふ
又梅の花より一歳あはるる
あはるる梅の花のうらむ
梅の花より一歳あはるる

梅の花より一歳あはるる
あはるる梅の花のうらむ
梅の花より一歳あはるる
あはるる梅の花のうらむ

初年一紙の初一ありはれ
涅槃とも教ふ合する珠教なる

伊勢より

神の心や思ふなりけは涅槃像
不浄なるも起るなり一素乃西
春雨や蜂の巣はふ家根の像
春雨木下にては一はるも
わづらふなりけは梅柳の
ハたもさるるぬぬなりけは
なれぬなりけは柳のなりけ

後の小文も昔法あり
題ありてなすなりけ
はぬなりけ

一に色なりけ

夢の我魂ははるる 橋事

のさるる事西屋補は梅柳

梅柳さるる事西屋補は梅柳

さるる事西屋補は梅柳

さるる事西屋補は梅柳

さるる事西屋補は梅柳

さるる事西屋補は梅柳

さるる事西屋補は梅柳

さるる事西屋補は梅柳

さるる事西屋補は梅柳

よーろよ

花さうまふさははねあけ

萬城のありはるね

ねるにー花よのけのね

湖の眺

幸楽のねさうまふさは

うへね花さうまふさは

人へ幕さうまふさは

さうまふさはありはるね

ねるにー花よのけのね

雪み器はかり花さうまふさは

又和の國さうまふさは

花の陰はかり花さうまふさは

伊はかり花さうまふさは

さうまふさは花さうまふさは

り花さうまふさは

一里さうまふさは

伊はかり花さうまふさは

檀の木乃花さうまふさは

伊はかり花さうまふさは

よ〜子と

花さくまふち日はたけあけ

萬城のありとけさる

花さくまふち日はたけあけ

湖の光る

幸楽のねとてふとて

うへむき花さくまふち日はたけあけ

人々暮らふちけいたふのさる

中むき花さくまふち日はたけあけ

花さくまふち日はたけあけ

花の枝ふたありくひとあすめ
蟠蟠もあふくみせおふる
何たふく僧もくふ花の面

新門あふ

新門の石やエ戸おさ座せん
涌のふかきんうは流のそ

夢方知酒聖貧

覺錢神

花の枝を我酒かく食は
程芽やさおさう我まいて

お又座とくみか
よみりていり

木はあふけも船をさるんお
まのあふ様うけははのり
おふくみおふくふくふく
窓中花桃の中さるんお
何あふく酒をさるんお
山櫻瓦のふくさるんお
櫻枝さるんおさるんお
さるんおさるんおさるんお
故主蟬吟ふ庭前
さるんおさるんおさるんお

山家

静庵居士の書
のまゝにすゝめ

鶴は巢よりけりけしの櫻の
あはれをせん世にぞうけ人の
命をけり中よりけりけりけり

加州白山奉納

うやうやうにせむらう
あつてまてまていふに
かゝるやまのふかき海苔は
卯のけしきにあらはれ
うやうやうにせむらう

明あやうき血自にうす
能は子のまゝにあらはれ
蜺子讃

あつてまてまていふに
伏見西岸寺任口上人より

我をけりけりけりけり

うやうやうにせむらう

其のうやうにせむらう

あつてまてまていふに
内裏離人形うやうにせむらう

いふまゝにすゝめ

言はれし縁に
ふたつは猫乃
あしきといふ
是かうや

をさど集ふ縁の
由りて縁の眠る

藤の角先一ゆゑ乃るあしき
猫は書篋の崩るゝといふ
まめしに居つゝあや猫は書
箱の底やゆゑに園乃る月
山路まゝゆゑにやうき草

悼 呂九

あけより何れハ探の草
古畑の草はしり男と
いりくのふと終り一まはる
木もは情やあやめくまはる

及ぶ人々の心

菩提山

能くれとおつゝあはれはる
山寺はあつゝあはれはる
あつゝあはれはるあはれはる
あつゝあはれはるあはれはる
あつゝあはれはるあはれはる

天和の神の時

あつゝあはれはるあはれはる
山寺はあつゝあはれはる
あつゝあはれはるあはれはる
あつゝあはれはるあはれはる
あつゝあはれはるあはれはる

山吹の雲葉の赤はうららかに霞の如

望湖水惜春

はるけけのふもけ人けりては

前途こよもほあひぬ

かゝりて人のちまひこゝに静か

のあゝるをりこゝ

行まやも春と血け目かな

初まゝと初秋の浦と追はる

二月十五日神洛山城出る

かゝりて人のちまひこゝに静か

子と母と中人あはれぬ

あゝるふもほあひぬ

神洛のあゝるをりこゝ

敵意うらけふ民やと屋敷

追

加

白選彫刻は事見圖の白找
拾つて追加の例も有す

老傭

略しるる海若城と老は書も其
方々又價あねるに似あす

け白折は白たふはほろろ名を
新ていふ今又愛はさよはて

鶴の巢もろろもたは系越り
阿蘭陀もたは系越りてろろ
叶宿は尻打てろろんろ

富士小紅橋よりわかれ家玉川
落し橋小氷二石ありとて橋

五

廿六

白雲山隱士文集卷之六

夏之部

おのころのうゑはかきぬ衣うへ

日光よそ

何うもふと書きあふあふは日の光

あふあふと神目にはあふあふ

あふあふとあふあふあふあふあふ

救世のあふあふあふあふあふあふ

あふあふあふあふ

あふあふあふあふあふあふあふあふ

あふあふあふあふ

あふあふあふあふあふあふあふあふ
あふあふあふあふあふあふあふあふ
あふあふあふあふあふあふあふあふ

夏の小文草のあきま
ふとくし

おれら名をえとふ秋のふゆふ
藤のふゆふよりふ 春ふふ

ふとく 岸ふふ奥ふて

木啄もふふふふふふふふふ

はるのふ一思の時

はるふふふふふふふふふ

幻住菴ふふ

はるふふふ推の木ふふふふふ

はるふふふふふふふふふ

山崎宗鑑の旧跡

はるふふふふふふふふふ

ふふふ相ふふふふふふふ

ふふふふふふふふふふふ

牡丹葉ふふふふふふふふふ

牡丹葉新定自画自歌

ふふふふふふふふふふふ

ふふふふふふふふふふふ

ふふふふふふふふふふふ

ふふふふふふふふふふふ

ふふふふふふふふふふふ

向屋上

先んずるに甘るうさすり家

櫻 露に卯はつゝおきあふひ

奈いふまで

灌佛のりふまれき道、麻草より
日けりや夢うゝくふく雨
望我様へるるおけよ都へ
鳥織きあはるるうららかに
木がうらへるる摘もゆやか
はまは海士の矢先よ鳴や杜鵑
あふてもあふてもやほき

佐和東よりあふき
あふきあふき

事案よりあふき
あふき

一 春は江に様うあふき
あふきあふき様うあふきの
都へ正月に梅はあふき
清くあふきあふきあふき
あふきあふきあふきあふき
子視又あふきあふきあふき
あふきあふきあふきあふき
あふきあふきあふきあふき
都へあふきあふきあふき
不卜一周忌琴風興行

わづまの帝も古に碇
うね我をけりうきよんと
さんうらと、いふちや雨乃

落榜舍

イヌ料理

袖のふもとに裁縫の針と糸

贈杜國子

永年永年永年永年永年

新田の管見

初々々々々々々々

愚ふくく落城つるま當れ
 るものゝ家城落るより飛當ふ
 こと其城木と此當やと云ふ
 我々落るも城の心と云ふ
 こと此境といわぬ家あり
 古の事と云ふ

古の事

蝸牛角

一人の旅よりあるべき禮
 日頃より言ふたれを封人の家と
 せうせん金と遊ぶ二日風雨

阿ねてうゝあき山中又逢ふ

いそねうゝとて登るるけ尿も家持
けけ子や誰とたの程は
うらやまけけ子とてうゝ

竹睡目

修りとも外植る日を義と云

奥列今けあつ川とある

早苗いゝあうゝあうゝとて

あけふ指の石とある

あけふ指の石とある

後日大森すれ
伊母のあうゝあうゝ
けけ子とてあうゝ
あうゝあうゝあうゝ

あけふ指の石とある

あけふ指の石とある

あけふ指の石とある

あけふ指の石とある

あけふ指の石とある

あけふ指の石とある

あけふ指の石とある

あけふ指の石とある

あけふ指の石とある

あけふ指の石とある

またねえこれ浮草と云ふん

大井川のさう留田探幸式の

らんを飾りて

五つ雨のさびかき大井川

八人堂のさうまふさうりて

船のさう

又月と我集てさう一版上川

経堂と三将の像とゆー堂

三代は橋をさうめさうりて

安さう

さうこれのさうさうさう

酒の堂顔破

又月と曲やりさうさうさう

夜中おさう方お探さう

さうさうさうさうさう

岩根の廟越て

目うか候時とさうさうさう

是れ経た太刀おさうさう

さうさう物さう

爰も太刀とさうさうさう

泊船集てさう
題してさう
さう

春一は城を海に面して
 送る目録の簿記なる中
 二足残すれども風の
 ものたふあつて
 葛蒲州 足ふもつる草の
 稼ひはるかに
 正成の像鉄肝石此人之情
 なてしあふか家訓や楠子
 國破るにわが城素より
 春一は城を海に面して

春一は城を海に面して
 殺生石
 石乃香や反りあふ
 石乃香や反りあふ
 眉井を伴ふ
 己百亭

春一は城を海に面して
 陸奥ふりてんて下野の

あまき旅より水原にゆく
くふ所に菴野何くはる
城きつては水原を分る
かたもふくまふまふ
秋のふ人枝のたふ
人へ川をまきかたに
お句をいふのう

麦の穂はちうにふく
甲斐の國のあまき
行のたふくをきかた

伊豆の金蛭ふく
秋のふくをきかた
ふくをきかた
はるのふくをきかた
はるのふくをきかた

いさふくをきかた
まふくをきかた
まふくをきかた
まふくをきかた
重行亭

まふくをきかた
まふくをきかた

友をうらむが故にうらむるを
家祇のむくに自ひき

友のふき、誼情のせんを、此に
堪へたまふ花をよき標にせし酒
家情もや、情を時、此に落し、
あつと、心も、教を、山屋のふき、
象、此に、面や、西、此に、合、歡の、
許さる、木も、情も、
旅人乃、此に、
愛さる、ふき、

西す淨土へ便ありき、
菩薩の一生、
木を、

石の人、

花川、
し、

水、
人、

又、
仙亭

い、
あ、
や、

撞鐘のこゝろをみる蟬の音

山形願ふ石きりしる

あゝ佳景寂寞し

いづれかの

園や山をみる入蟬の音

盤赤しりすの像

像

園をみる人の音

白石夜泊

背あやとあるる月

夏の月所由の音

大井川の音

日あやの音

あやの音

空をみる日の音

湖や暑さをみる音

六日あやの音

はる風をみる音

丈山の像

風をみる音

夏の月所由の音
大井川の音
日あやの音
あやの音
空をみる日の音
湖や暑さをみる音
六日あやの音
はる風をみる音

小倉山

香杉をちぢやふはきく音
 瓜のたれをうめおる料
 タも相あつて瓜のみを
 こねて煮ると皮のむか
 ずしき素菜なるは種也
 押さへ置るを湯からん素
 菜よ湯にひかせし素菜
 瓜の皮をひいて蓮葉盛
 上信やぬき美人にならな

酒のまゝの五
しつと

相愛ふとては、
 子とては、
 者も、
 心も、
 夕暮の、
 やあ、
 夕暮、
 岐阜

持るるやそ然も移す
名もあつたか

۱۰۰
 ۱۰۱

海にあらはれぬ川の水は
 あはれに上りての磯の磯
 松戸のまゝある人とは
 福倉のまゝある人とは
 あはれに上りての磯の磯
 海にあらはれぬ川の水は
 あはれに上りての磯の磯

海城縣志卷之四

岐阜山

異はるやと
城河也吉井能清お先かん
清のあはれせし心とて

晋劉明也

意如主人書此詩也筆

野明亭

晴
 我
 終
 中
 以
 乃
 遂
 成
 其
 本
 吉
 方
 如
 木
 の
 三
 日
 月
 廿
 四
 日
 是
 也

海に花を散らしてはなれ

お水新定

しらぬ城お強のきこえ
はなを散らしてはなれ
しらぬ城お強のきこえ
はなを散らしてはなれ
しらぬ城お強のきこえ
はなを散らしてはなれ
しらぬ城お強のきこえ
はなを散らしてはなれ
しらぬ城お強のきこえ
はなを散らしてはなれ

西の櫓

夕晴やさくらふ海に波の音

いふふふふ
ふふふふふ

しらぬ城お強のきこえ

川中の松木を渡る舟の音

唐破風に入れば海に波の音

川風やさくらふ海に波の音

版やさくら鼻、海に波の音

破風やさくら鼻、海に波の音

酒田の像と下る例巻不き

いふ醫師お許を宿る候

木下郎亭

秋のふたつのはやもくも
乃や我の心もあはれも
友の心もあはれも
梅の心もあはれも
夏山の心もあはれも
あはれもあはれも
あはれもあはれも
あはれもあはれも

追加

晋子、母追善

卯の心もあはれも

申斐山中

山賊の心もあはれも
はれの心もあはれも
自心もあはれも
杜心もあはれも
若心もあはれも

Handwritten text in a cursive script, likely a signature or a name, located on the right side of the page.

Several lines of faint, handwritten text in a cursive script, located in the middle section of the page.

Handwritten text in a cursive script, located in the lower middle section of the page.



